

大山町議会議長 杉谷 洋一様

大山町議会議員 池田 幸恵



## 平成29年大山町議会議員研修報告書

1	日 時	平成29年10月5日(木)～6日(金)	
2	研 修 地	滋賀県大津市唐崎町2丁目13番1号	
3	研修内容	( 内 容 )	( 場 所 )
		(1) 協働と交流のまちづくり	全国市町村国際文化
		(2) 超高齢者社会において町村が先導する自治経営モデル	研修所
		(3) 地域の本来的価値と地域づくり—何を上乗せするか—	研修棟2階講堂
		(4) 地域の強みを生かした農林水産物の海外販路開拓	
4	研修結果 又は概要 (意見・ 感想)	(1) 行政はサポート役、住民が主役というまちづくりの思想だけではできない。 行政、個人、商店など利害が異なる人世代が同じ方向を向くことである。 また、ただ単に売るではなく付加価値やストーリーをつけることによりその土地ならではが生まれる。	
		(2) 財政状況は余分なサービスを抑え、必要最低限の行政サービス確保のために財政を切り詰めていく状況に直面。過疎地域では決して暮らせない状態になるのではなくサービスの「水準」確保が難しくなり「暮らしにくい」「以前より不便」な状態になる。連携・協力の必要性。	
		(3) 『平成の大合併』後も全国的には、小規模な市町村は相当数存在しており、そうした地域において、持続可能な行政サービスを提供していくことは重要な課題である。同時に規模・能力に応じた個別的な補完・支援が求められる。 しかし、様々な側面の変容を踏まえれば、補完に変わる柔軟な支援の手法が課題でもあり、必要である。	
		(4) 地域の強みを活かし農林水産物の海外販路開拓。しかし取り組みさえすれば誰でも必ずうまくいくものではない。様々な要因を一体的に推進オールジャパンで輸出に取り組む体制の整備が必要。地元資源についても同様に『無いものねだり』から『あるもの探し』へ意識転換。地域の人たちが考える価値・幸せ・モノ・地元愛をまず県内に発信、それが本物であれば人は集まり食・文化・観光などの地域資源となる。	
		(5) まとめ  当たり前のことを当たり前にできる町に。  町の歴史や文化を元に、町の強みや良さをしっかり分析して戦略を練る。  地元に無いもの探しをせず、あるもの探しを。  誰のためにするのか、何のためにするのかを常に忘れない。  等々、いかに自分に置き換えて実行することが大切である。	